

各教科等との関連を生かした道徳教育

—要としての道徳の時間を機能させよう—

昭和女子大学 押谷由夫

1 これからの道徳教育で特に求められること

(1) 道徳的価値に照らして自己の生き方を考え追い求められる子どもの育成

- ・ 自己評価力、自己学習力、自己指導力を高める
- ・ 自己の生活設計ができる

(2) 各教科等における道徳教育の充実

- ・ 各教科等の学習を豊かな人間形成・人格形成という視点から捉える
- ・ 個と集団の発達を同時に考える

(3) 要としての道徳の時間を充実させる

- ・ 生きて働く道徳的実践力の育成
- ・ 道徳的価値の自覚を深め豊かな自分づくりの要とする
- ・ 総合単元的道徳学習を工夫する

2 道徳的価値に照らして自己の生き方を考え

追い求められる子どもの育成

(1) 自己評価力・自己学習力、自己指導力を高める

- ・ 道徳的価値に照らして自己を多様に見つめる
- ・ 道徳的価値に関する自己課題を見出す
- ・ 道徳的価値に関する自己課題を多様に追究する
- ・ 再度自己を見つめ自己評価を深める

(2) 自己の生活設計ができる

- ・ 見通しをもって生活できる
- ・ 日々の生活や学習を豊かな自己形成とのかかわりで捉えることができる

- ・ 具体的に生活プランを作ることができる
- ・ さまざまな場面において自分の行動を律していくことができる

3 各教科等における道徳教育の充実

(1) 各教科等の学習を豊かな人間形成・人格形成という視点から捉える

- ・ 知識や技能を身につけることは大切であるが、そのことを通して人間としてよりよく生きる力を育てることが大切

(2) 各教科等の教育活動の目的を押さえる

- ・ 知識や技能の修得にかかわるものと、態度形成にかかわるものが必ず含まれている

(3) そのために子どもたちにどのような「気づき」や「興味関心」をもてるようにすることが大切かを考える

- ・ 学習内容にかかわる知的な気づきや興味関心
- ・ 学習内容にかかわる道徳的気づきや興味関心
- ・ この二つを押さえながら、教科の学習では「学習内容にかかわる知的な気づきや興味関心」を中心に追究していく。しかし、かならず「学習内容にかかわる道徳的気づきや興味関心」を押さえておく

(4) 「道徳的気づきや興味関心」を具体的な生活の中で生かしていくようにする

- ・ 個別的学習
- ・ 協同での学習
- ・ 道徳の時間との関連

(5) 各教科等の学習において、その分野に関係する人物を取り上げる

- ・ この勉強をするとどのような生き方が拓かれてくるのかについて感じ取れるようにする

(6) 個と集団の発達をダイナミックに図る教育を創っていく

- ・ 認め合い、支え合い、一人立ちできるようにする
- ・ 全員参加の役割分担と価値ある活動（体験）の推進

(子どもたち一人一人の心の支えとなる学級にする)

- ・多様な小集団活動を積極的に取り入れる

(多様な創造・表現活動、習得的活動、探究的活動、活用的活動等)

- ・協同的練磨(助け合って、競い合い、磨き合う)を重視する

(個々のよさを生かして集団活動を磨き合う、個々の学びを重ね練り上げていく学習を重視する)

- ・将来への夢や大志をはぐくむ

(7) 道徳的学びに関する評価を工夫する

- ・4観点(関心・意欲、思考力・判断力、表現力・技能、知識・理解)の中で道徳的学びを押さえる
- ・5観点目として道徳的学びを加える

4 要としての道徳の時間を充実させる

(1) 資料との会話を深め心に残す授業を工夫する

- ・資料の世界に浸る
- ・登場人物の立場に立って想像し、創造的に考える
- ・資料の世界や登場人物の生き方や考え方と対話をしながら自分を見つめる
- ・資料を通して、資料を媒介とした話し合いを通して、資料と自分自身との対話を通して、新しく学べたこと、心に留めておきたいことなどを記録し、積み重ねていく

(2) 予習と復習のある授業を工夫する

★道徳ノートを作ろう

- ・考えてきたこと、調べてきたことなどを踏まえて授業をする
- ・授業のあと、もう一度授業を振り返って授業で学んだことや考えたこと、気付いたことなどをまとめる
- ・さらに、授業の後に取り組んだこと、気付いたこと、考えたことなども記入する

(3) 道徳的価値について継続的・発展的に学べる授業を工夫する

- ・特に複数回取り上げる内容項目は、3～4回分の授業とその間の学習をまとめた冊子を作ることも考えられる（道徳ノート、心のノートの活用）

(4) 教科等との関連を密にした授業を意図的に計画する

（道徳的実践力の育成を多様に考え多様に育成する）

- ・道徳と特別活動、道徳と総合的な学習の時間、道徳と外国語活動、道徳と国語、道徳と理科など意図的に関連をもたせた指導を工夫する。（それぞれの指導のポイントを押さえて道徳の時間の特質がより生かせるようにする。）

(5) 自己評価を深め、豊かな自分づくりのかなめとなる授業を工夫する

（道徳の評価は、子どもたちの自己評価を評価するという視点が必要）

- ・一時間、一時間を積み重ねていけるようにする（自己評価を積み重ねていく）
- ・道徳の時間の学習や自己評価を振り返り成長を確認できるようにする
- ・トータルとしての自分が見つめられるようにする
（基本的な道徳的価値全体から自分を見つめる）

(6) 学級経営の中核となる授業を工夫する

- ・このような学級にしたい、このような子どもたちを育てたいという願いが子供たちに伝える授業を年度はじめや学期はじめに行う
- ・学級目標等にかかわる道徳的価値の学習を総合単元的に1ヶ月くらいの期間で計画する（道徳の時間がかなめとなるように工夫する）

(7) 学校、家庭、地域連携のかなめとなる授業を工夫する

- ・教師、子ども、保護者、地域住民が郷土資料や学校資料を創る
- ・地域の人材活用、地域への授業公開
- ・道徳の時間を保護者や地域の人と一緒に創っていく
- ・道徳の時間の学習の様子を学校通信や学級通信等で知らせたり、公共施設等でパネル展示などをする